令和6年度（第17回）「国土交通大臣賞（循環のみち下水道賞）」

別紙4

広報・教育部門

応募事例名

YouTube動画「埼玉下水.ｔｖ テクニカルノート」で情報発信

（さいたまげすい ドット ティーヴィー）

バズらないけどクセになる、下水道事業のノウハウ動画

応募団体名）公益財団法人埼玉県下水道公社

応募事例の概要

○ 下水道の維持管理に関するちょっとしたコツや普及啓発イベントの紹介など、ノウハウの一部を３～５分程度の動画にまとめ、毎月１本を目安にYouTubeで配信しています。
○ 職員が手作りすることにより、旬を逃さず発信したい情報をダイレクトに届けることができ、適度なクオリティーとコミカルな動きで下水道ファンの拡大を図っています。

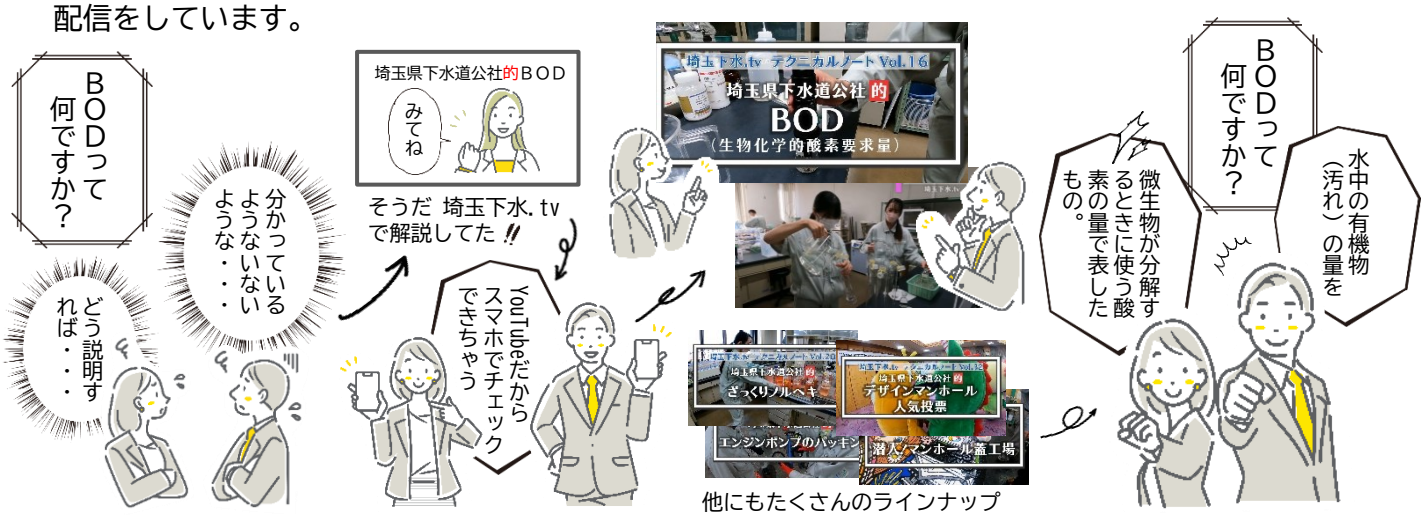
応募事例の内容

令和６年３月時点

令和３年６月から月１本ペース、２年１０カ月で３４本配信！

タイトルにある「埼玉県下水道公社的」の「的」は、法令を遵守しながら、自分たちなりの視点で「より安全」に「より効率的」な管理を求めて得られた「ノウハウ」という意味が込められています。

令和６年３月時点で一般公開２１本、専門性の高いものとして下水道担当者向け限定公開１３本の配信をしています。



PRポイント

配管のバルブやパッキンを扱う際のコツ、排水中の油分の指標「ノルヘキ」の解説、真夏のマンホール蓋の温度に着目するなど、ニッチなノウハウを楽しくお伝えしています。

当初は、市町村への技術支援の一環として専門性を重視していましたが、普及啓発イベントの紹介など、一般の方にも楽しんでいただいたり、リクルートも意識して制作しています。

公式チャンネル

市町村支援課
課長 若狭公一　主幹 伊藤拓哉

取組みに関するエピソード

若手職員が多く出演していますが、実はベテラン職員も積極的に出演してくれています。自分たちが培ってきたノウハウを引き継ぐための良いツールだという思いが伝わってきます。

制作にあたっては、根拠法令などを丁寧に確認するため、ニッチな分野をさらに掘り下げることになり、より理解が深まっています。

チャンネル登録者数は２１０、再生回数は多いものでも１，６００回と、まだまだですが、循環のみち下水道賞へのエントリーをきっかけに、知っていただく機会が増えるといいなと思っています。